

初等生活科教育法における F D 活動への取り組み

社会科教育講座・福田 喜彦

1. 授業の目的と達成度

本授業は、生活科の性格、目標と内容、授業構成の仕方、指導計画と評価の方法などについて理解すると共に、体験的な実習を通して生活科授業における実践上の諸問題や指導上の留意点について把握することを目的としている。

本授業では、シラバスのもとに、「生活科教育の意義」「生活科教育の歴史」「生活科の性格と目標」「生活科の内容構成」「生活科の学習方法」「生活科の授業構成」「生活科の学習指導計画の作成」「生活科の学習指導」「生活科の評価」の9つのテーマを中心に講義を進めた。本授業での到達目標は、①小学校生活科授業を分析、説明することができる、②小学校生活科授業の実践上の諸問題について、自分の考えをまとめ、論述できる、③学習支援案の立案を行いながら授業を創造、改善していくことができることの3点をめざした。

5段階評価による受講生124名に授業の中で課した自由記述型のアンケートと教育学部のDPとの関連性を検討した結果は、以下のようであった。

評価	A	B	C	D	E
DP1	21名	44名	41名	13名	5名
DP2	24名	37名	49名	6名	8名
DP3	24名	44名	37名	12名	7名
DP4	22名	55名	32名	5名	10名
DP5	10名	54名	47名	9名	4名

評価結果をみると、各項目でC以上の評価を占める割合が、DP1は85.4%、DP2は88.7%、DP3は84.6%、DP4は87.9%、DP5は89.5%であり、おおむね学生は授業の目的を達していたと考えられるが、達していない学生の支援も必要である。

2. 学生の学習体験を生かした授業改善の試み

本授業の前半では、これから教師として生活科の授業を実践していくために、学生自身の「生活科」の授業体験を振り返らせ、講義内容を理解していくための動機付けを考えさせた。以下は、小レポートに記述された複数の学生の意見である。

「特に印象に残っているのは、アサガオを育てたこと。一人一人専用の鉢をもって、種から育てた。水やり当番などをつくって、毎日教室の陽の当たるところに置いて観察記録をつけていた。芽が出たり、花が咲いたりすると報告し合って、とても喜んでいたのを覚えている。同様のことを3年のとき、ヘチマでやったと思う。ヘチマの実か何かで、タワシのようなものができて、それを集めた記憶がある。」

「私が生活科で最も印象に残っているのは「秋をみつけよう」という授業だ。家の周りや通学路、校内で秋のものを拾ってくるのが宿題、または授業の内容であった。落ち葉や松ぼっくり、どんぐりを拾ったのを今でも覚えている。その過程は、普段と違う視点で周りを見ている気がして、幼い私にとっては非日常のこととして捉えられたのかもしれない。また、その自身で見つけた「秋」は各々が持ちより、授業内でどこにあったか、自分はこれのどこがおもしろいと思うのかを発表した。」

レポートの記述にみられるように、学生達自身の「生活科」体験を内省することで、生活科の授業作りに向けた動機付けを深めることができた。

3. 実施指導講師を生かした授業改善の試み

本授業の中盤では、実地講師担当の授業の中で、おもちゃづくりを題材にした教材を実際に学生に体験してもらった。「おもちゃづくり」実践では、これまでの小学校の生活科授業の様子を話していただいた後、自分たちで用意してきた素材を使っておもちゃを製作してもらった。以下は、小レポートに記述された複数の学生の意見である。

「子どもが主体的に取り組む授業にするためには、ただ単に知識を与える授業ではなく、具体的に子どもが活動することが第一であると思う。活動では、身近な人々や社会および自然と関わることを中心にし、その活動を通して、自分自身や自分の生活について考えることができるとともに、生活をする上で必要な習慣や技能を身につけさ

せることが必要である。」

「私は、「子どもが主体的に取り組む授業」とは、子どもの発見や疑問・発問を重視した授業だと考えます。教師側からの発問や問いかけについて調べていくというよりも自分たちが活動しているなかで見つけた疑問、発見について調べていく方が子どもたちの興味・関心を高めることができると思います。また、子どもたちの考えの中には教師になかった発想も含まれていると考えられるので、その発想をもとによりよい授業の展開ができるのではないかと考えます。」

「授業では、私たち自身が実際に取り組むものが多く、楽しく授業に参加することができた。このように、黒板に書いてばかりというような授業ではなく、たとえば町探検だとか、おもちゃづくりだとか、子どもたちが動けるような授業だと主体的に取り組むことができるのではないかと思う。その中で子どもたちが自身が新しいものを見つけたり、変化に気づいたり、いろいろなことを体験することで意欲的に授業に参加することができるのではないかと思う。」

上記の学生の意見からは、体験的な授業を通して、生活科の授業が持つ意味を実感することができたことを読み取ることができる。このように実地指導を講師による「アクティブ・ラーニング」による授業後、講義では、これらの生活科の授業体験が持つ意味を生活科の学習指導要領や歴史的背景から読み解き、学生達に考えさせていった。

4. 学習指導案作りを通じた授業改善の試み

本授業の後半では、「初等生活科教育法」の授業を踏まえて、本授業で生活科の学習指導案作りのレポートについて感想を述べてもらった。以下は、回答を寄せてくれた複数の学生の意見である。「今まで指導案を作ったことはほぼなかったもので、作成には非常に苦労した。まず、どんな単元にするのか非常に悩んだのだが、小学生の時に自分の学級ではなかったが、「タイムカプセル」を使った活動を行っていた学級があり、とても楽しそうで「自分もやりたい」とうらやましく感じたことを思い出した。このような自分自身の経験から、子どもたちは、タイムカプセルのような自分たちだけの秘密を持つことができるものに興味を引かれるのではないかと考え、タイムカプセル用いた単元に決めた。指導案を書き始めてみると、「こんなこともしたい」「子どもたちにこんなことも学んでほしい」とどんどんやりたいことが出てきて大変であったが、実際にこの授業を行って

いる様子を想像しながら楽しんで作成することができた。」

「指導案をつくる中で1時間分の授業を考えることは簡単なことではないと思ったのが正直な感想である。1時間分を文字に起こすだけでも、単元全体の目標や活動内容を踏まえなければならぬ。そのため、一コマごと別々の授業として考えるのではなく、一つの単元を通して目標や活動を考えるべきである。そうすると、一貫性のある学習内容にすることが可能になるのではないかと感じた。また、評価について考えるのが苦労した。生活科における評価の特色は、国語や算数等の他の科目とは全く異なる。何故なら、生活科は具体的な活動体験を主とした科目であるからだ。そのため、他の科目と同じように考えてはいけぬ。具体的な活動は、個々人の差が出やすいという特性があると思う。そのため、評価にあたっては、全体の水準にあわせて優劣を決めるのではなく、その子自身がどれだけ一生懸命取り組んだかなど、個人にあわせて評価すべきだと感じた。」

「今回、生活科の授業を作成して感じたことは、どのようにすれば児童に学んだことを定着させることができるか、ただ遊びなどの授業にせずに授業を展開していくことができるか、ということ是非常に難しく、経験が重要になってくるな、ということである。明確な教材がない分、授業の展開の仕方も様々であり、失敗も起こりやすい科目であると考え。生活科の授業の特色は児童が主体となって授業が展開されていくということであるが、教師にはいかに児童に興味を抱かせる、惹かせる授業を展開することができるか、という能力が求められているふう感じた。」

このように本授業では、生活科の授業を様々な視点から解説するという部分と実地講師の体験的な活動を行う部分に分けて構成することで、生活科の授業づくりに必要な多面的な視点を学生達に提供することができたのではないかと考える。

5. 次年度への課題

本年度は、生活科の授業作りを行うために求められる小学校教師の資質や能力を高める授業を展開した。しかし、学生達の意見を踏まえて、より魅力的な授業作りを行うには学生による活動や発言を授業でより活発にする必要性を感じた。

最後に、受講してくれた学生諸君の意見をFD活動の成果として取り入れ、さらなる授業力の向上に努めたいと考えている。